

森のたより

3.1.2017

一年の締めくくりの月を迎えました。五歳児の皆さんは、すみれのおへやへ引っ越しをして年長クラスとしての1ヶ月が始まります。また、すみれの子たちは以上児のクラスに移動して4月からの環境作りを試み始めます。

今日は一年間暮らした子たちとのお別れの日でもあります。人形劇を見て「笑いすぎておなかがいたくなった！！」と満たされた気持ちの中にスーッと、お別れの風が通ります。

心の中をことばやカタチにあらわすことはとても難しいですね。ちなみに今日の人形劇は「ひとりは大好き、大嫌い」でした。ひとりで遊ぶことが大好きだった主人公の女の子が友達に誘われてみんなで遊ぶ楽しさを知り、ひとりで遊ぶこと、みんなと遊ぶこと、どっちも楽しいとお話しが展開していきました。面白くもあり悲しくもある。楽しそうだけどイヤな気持ちもわかる。などなど、色々な気持ちを感じました。

人は気持ちの動きを体や、ことば、作品で表わしてきました。そのことを文化だとか芸術というわけです。そう思うと芸術は自分と離れたところにあるのではなくとても身近なものだと思えてきます。

「じぶんのきもちをことばでいおう」とは何か標語のようですが、以前、東京の保育園を見学した折に以上児クラスの棚の上に書き残してあったことばです。未満児のクラスなどでは「かして」ということばが出なく、「いいよ」ということばがわからないために友達の腕に噛みついてしまうということがあります。小さな子ならばともかく、大人の社会でもことばが足らなかったことが原因で人を殺めてしまうような事件があったりします。

自分の気持ちをことばにするには少しの訓練も必要です。「代弁」という方法は乳児のクラスでよく使われるテクニックです。「〇〇さん『かして』というといいよ」とことばをその子の代わりに言ってあげる。又、言い方を教えるという方法です。

この代弁は乳児だけでなく幼児にもとても有効です。私たちはケースバイケースで様々なことばを使いコミュニケーションしていくのですが、より確かで、よりわかりやすいことばを選び、互いにより理解を深めるために工夫しています。子どもたちにも大人の工夫を伝えたいものですね。

月中頃に開催する今年度の作品展には子どもたちの力作の絵画、陶芸を展示します。どれもこれも力作揃いです。まさしく芸術の世界です。鑑定団に出るような有名な作品ではありませんし、展覧会に入賞した作品でもありません。

子どもたちが感じた心の動きが絵となり、粘土細工になりました。是非ともゆっくりご覧いただきたいと思います。

ながら
こどもの森

hokendayori

今年も残すところあと1ヶ月となりました。1年前を思いおこすと、子どもたちひとりひとりの表情、行動にあらためて大きな成長を実感しています。

みんな元気に新年度を迎えられるよう、最後のひと月、大切に過ごしましょう！！

この時期は進級・就学を控えて、気持ちが不安定になりやすいです…

新年度を控え、多くの子どもたちが、『1つ大きくなる』という喜びでいっぱいな時期です。
ただ、なかには、大人の期待を過剰に受け止めて、気持ちが不安定になる子どももいます。

目をパチパチさせる、口をゆがめる、咳ばらい、肩をピクッと上げるなど、このような症状は、子どもの精神的緊張から起こっていることが多く、無意識に行っています。園生活や家庭生活を振り返り、原因と思われることを探しましょう。
症状が見られても怒ったりせず、子どもには意識させないようにしましょう。
何かいつもと違うと感じることがありましたら、いつでも相談・お知らせください。



【チック症】
チック…突発的で、不規則な、体の一部の速い動きや発声を繰り返す状態。

自分で意識することなく繰り返す筋肉の運動のことで、首から上の症状が多い。
原因は、はっきりとは分かっておらず、不安・心理的緊張・過度の緊張などが誘因になると言われています。

3月の行事予定

2日　新入児説明会
3日　ぞうさんクラブ
　　交通安全教室
6日　年長児お茶のおけいこ
8日～10日　園児作品展
できれば、「ゆ　り、つくし　は8日」
「ふ　じ、たんぽぽ　は9日」
「さくら、すみれは10日」 におこし下さい。
8日　おわかれえんそく
　　年長クラスが金華山へ
13日・14日　発育測定
15日　いきいきサロン
16日　おわかれかい
18日　卒園式
21日　年長児お茶のおけいこ
22日　避難訓練

お願い

お持ち帰りいただいた「焼き物」は食器として使っていただけるように、粘土、釉薬、絵の具などは安全な品物を使っています。
但し、市販の陶器と違い、窯のホコリが十分に取れていない場合があります。
先ずカネたわしや堅いスポンジで水洗いをして下さい。

お知らせ

今まで、園内での事故について、あそびや生活の中でおこったケガなどについては複数の子どもたちが関わった場合でもケガをした本人の保護者の方のみに連絡をしておりましたが、今後はその事故に関わった当事者のお子さま全ての保護者の方に連絡をさせていただきます。
尚、個人的なトラブルが起因してケガをした場合は、今まで通り双方の保護者の方にご連絡をさせていただきますのでご了解くださいますようお願いいたします。